



50th Anniversary

福岡県移住者子弟留学生制度
50周年記念式典・記念懇親会

報 告 書

公益財団法人 福岡県国際交流センター



福岡県移住者子弟留学生制度
50周年記念式典・記念懇親会

報 告 書

目次

Contents

記念式典・記念懇親会プログラム	1
主催者挨拶	2
祝辞	3
お祝いメッセージ	4
県費留学生OBからの報告	10
参加県費留学生OB名簿	15
記念式典・記念懇親会 写真	16
福岡県移住者子弟留学生OB写真	23
県人会別留学生受け入れ実績一覧	35



■ 第一部 記念式典 (芙蓉・華)

2019年11月7日 (木) 17:30-18:30

開会

主催者挨拶 福岡県知事 小川 洋

祝辞 福岡県議会議長 栗原 渉

県費留学生OB代表挨拶 在ボリビア福岡県人会会長 米倉 宮園 ローサ 俊江

県費留学生OBの紹介

県費留学生OBからの報告
トロント福岡県人会 合戸 祐
ブラジル福岡県人会 古川 植松 マルシア
ブラジル福岡県人会 福島 義則 ワルテル

花束贈呈

閉会

■ 第二部 記念懇親会 (芙蓉・雅)

2019年11月7日 (木) 18:40-20:00

開会

乾杯 公益財団法人福岡県国際交流センター理事長
藤永 憲一

歓談

～令和元年度留学生からの挨拶および歌披露～

写真撮影

閉会

皆さん、こんばんは。福岡県知事の小川洋です。

このたび、多くの県費留学生OBをお招きして、皆さんのルーツである、ここ福岡県において、「移住者子弟留学生制度50周年記念式典」を開催できますことを大変嬉しく思います。

この移住者子弟留学生制度は、将来の県人会を担う中核的な人材を育成するための制度で、これまで半世紀にわたり、総勢445名の留学生を受け入れてきました。



県費留学生の皆さんには、1年間、県内の大学などで専門知識や技能を修得していただくと同時に、福岡県の今、即ち、経済、産業、文化、生活などの現状を見て、それに触れて、さらに理解を深めていただいております。そして、帰国後は県人会活動に積極的に参加され、本県とそれぞれの国の交流の架け橋として、大きな役割を果たされております。

今年度も、7か国から9名の県費留学生がお越しになり、九州大学をはじめ、県内の大学や専門学校で勉学に励まれています。

さて、移住者の皆さんによる多くの県人会では、移住から長い年月が経過し、世代交代や高齢化、後継者の育成といった課題を抱えておられます。こうした中、これまで多くの留学生を輩出してきたブラジルでは、2012年、県費留学生のOB会が設立されました。これによって、留学経験者同士の横のつながりが強くなり、福岡県との交流活動の輪が広がってきています。また、アルゼンチンやメキシコ、ボリビアでは、県費留学生のOBが県人会の会長に就任し、県人会活動の要として、大きな役割を果たされるなど、今まさに、この制度の成果が形となって表われてきています。

私は、人と人との草の根交流、地域間交流の積み重ねが、国と国との信頼関係、友好関係の基礎になると信じています。県費留学生の皆さんには、それぞれの国と福岡県の架け橋として、また、将来の県人会を担う存在として、今後も一層活躍されますことを大いに期待しています。

結びに、県費留学生の皆さんの今後益々の御活躍により、それぞれの国と福岡県の友好関係が一層深まっていきますこと、そして、世界各地の県人会の益々の発展と、本日御出席の皆様お一人お一人の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日は、ありがとうございます。

2019年11月7日

福岡県知事 小川 洋

祝辞



福岡県議会議長の栗原渉でございます。

県議会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

福岡県移住者子弟留学生制度が50周年を迎え、本日ここに、記念式典がこのように盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

また、藤永理事長をはじめ、福岡県国際交流センターの皆様におかれましては、日頃より本県の国際交流の推進に多大なるご尽力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

海外移住の先駆者の皆様におかれましては、移住先で幾多の困難を乗り越え、福岡県人、日本人としての評価を高めていただくとともに、移住先と本県との交流の発展に非常に大きな役割を果たしていただいておりますことに、改めて心から敬意を表します。

現在、移住県人会においては、世代交代が進み、日本語や日本の伝統・文化を知らない世代が増え、後継者の育成など切実な課題に直面しております。

こうした中、これまで福岡県移住者子弟留学生制度により、総勢445人もの多くの留学生が、移住者の故郷ここ福岡県で学び、その後、それぞれの県人会において大いに活躍されておりますことは、大変うれしく、また心強く思います。

福岡で学ばれた皆様は、留学中に得られた様々な経験や築いた友好関係を大切にされながら、リーダーシップをとられ、それぞれの県会を一層盛り上げていただきますようご期待申し上げる次第です。

また、皆様は、福岡県における国際交流において大変重要な存在です。今後とも、福岡県と皆様の国、地域との交流の架け橋として、お力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

福岡県議会といたしましては、皆様のふるさつである福岡県のさらなる発展のため、一層尽力して参る所存でございます。

本日は、世界各地からお集りの皆様交流を深められ、ネットワークがさらに広がっていきますことを願っております。

結びに、福岡県移住者子弟留学生制度を継続、発展させるため、多大なるご尽力を賜りました関係各位の皆様心より感謝申し上げますとともに、福岡県国際交流センターのさらなるご発展と、ご臨席の皆様一人ひとりの御健勝と御活躍を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます



2019年11月7日

福岡県議会議長 栗原 渉

お祝いメッセージ



在ポリビア福岡県人会会長の米倉宮園ローサ俊江と申します。

本日は、福岡県移住者子弟留学制度50周年記念式典、誠におめでとうございます。県費留学生OBを代表し、一言ご挨拶をさせていただきます。

まず、福岡県の皆様におかれましては、留学生を毎年のように受け入れていただき、また、外国に住む県人会をいつも心に止めて頂きこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

県費留学生制度が始まったころは、現在のように、世界に移住した福岡県民の子供達の多くが、母国福岡で学ぶことができるということを夢にも思っていなかった事でしょう。

私は、平成2年度の県費留学生として、中村学園短期大学の食物栄養科にお世話になりました。

祖父母の故郷である福岡県は、私たちにとっては何もかも全てが初めての世界であり、夢や希望とともに、大きな不安を抱いてやって来たことを留学当初の記憶として懐かしく思い出します。

片言の日本語でしたので、専門学校や大学の授業には、ついていっただけでも精一杯でしたが、福岡県人の皆様はそのような私達を心よく迎えて頂き、様々なご支援を下さいましたことで、勉強だけでなく日本語、そして日本の習慣も身に付けることが出来ました。

皆様の多大なるご尽力とご協力により、今では生まれは外国でも私たちの母国は日本福岡だと心から思える事が出来、福岡県民であることに誇りを持っています。県費留学生としての経験は、私達の人生に大きなプラスとなっています。

県費留学修了者は、現在それぞれの分野で留学経験を活かして大いに活躍しており、今後も引き続き日本との懸け橋として努力していきたいと強く思っています。

我が県人会では、帰国した留学生は、在ポリビア福岡県人会の正会員として県人会の活動に積極的に参加しています。私たちとしては、これは県費留学経験者として当然の義務であると考えていますし、私自身も現在在ポリビア福岡県人会の会長を務めさせて頂いておりますが、そのことを誇りに思っています。

県費留学制度が始まって50年という節目を迎え、これからは、私達の子供や孫の世代になるでしょう。次世代へと繋げるにあたり、これまでのご恩に報いるべく、県費留学生OGとして出来る限りの協力をしてまいりますので、関係者の皆様方におかれましては、引き続き本制度推進へのご尽力を賜りたく、何卒よろしく願いいたします。

最後になりますが、本日の機会を通じて母県との絆が益々深まることを願っております。今後とも末永くご指導、ご棄たつのほどお願い申し上げます。

長くなりましたが私の挨拶の言葉とさせていただきます。どうも有り難うございました。



2019年11月7日

平成2年度福岡県移住者子弟留学生
在ポリビア福岡県人会

会長 米倉 宮園 ローサ 俊江

お祝いメッセージ



皆さまこんにちは。

福岡県知事小川洋様をはじめ、この歴史的な式典の開催に携わった全ての方々、御出席者全員にお祝いを申し上げます。

私はブラジル福岡県人会の南アゴスチンニョ俊男と申します。今回の世界大会には参加の予定でしたが、病気療養中のため大変残念ながら参加できませんでした。



私は1980年に県費留学生として九州大学工学部水工土木土質力学の故山内豊聡（やまのうちとよとし）教授の下で研究をしました。山内教授は厳格な方でしたが、とても親身になってご指導をしてくださいました。

その当時を振り返ると、インターネットはなく、ブラジルへの電話はとても高価で手紙は到着に3週間かかる時代でした。しかし、私にとってとても良い時代だったように思えます。母国から遠く離れて新しい世界に飛び込み、自分一人の力で一から覚えていくことは大変でしたが、覚えたての日本語を使い友人を作り、新しい知識を得て環境に適応していく喜びは格別で、その後の私の人生に大きく役立つと思います。大学で過ごす時間が長く帰宅はいつも22時を過ぎていたので、空腹で毎日長浜ラーメンを食べていました。とても良い思い出です。

山内教授はじめ助教授と研究室の学生たちの御指導のおかげで、無事に1年間の留学期間を終え、もう1年間日本で研究がしたいと思い海外技術協会の紹介で、ブラジル国アマゾナス州バルカレナに拠点を置く、アルブラスアルミニウムに技術と資本提携をしている、大牟田にある三井アルミニウム工業株式会社に研修生として入社しました。ここでも新しい技術を学び、多くの友人ができ有意義な生活を送り、研修後に日本人女性と結婚して1982年にブラジルへ帰国しました。

職業の面では知人の紹介でブラジル竹中工務店に技術者として入社し、20年間勤務し専務取締役役に就任しました。竹中工務店がブラジルの経済の悪化の為、撤退すると決めた時は顧客の要望に応えそれまでの工事の引継ぎや財務処理などを行うために、デニブラエンジニアリング社を立ち上げました。

県人会での活動においては恩返しがしたいと、青年部に所属し色々なイベントの手伝いを始めました。青年部部長から壮年部部長、副会長から2008年のブラジル移民100周年の年に会長に就任し、麻生前知事を団長とし県会議員や家族会の方々をお迎えすることができました。また、2010年にはブラジル福岡県人移民100周年記念と世界大会並びにブラジル福岡県人会創立80周年を同時開催し、福岡県の大きなお力添えのおかげで、福岡県と世界各地の県人会は、ブラジル全国から総勢800人の御参加を得て式典を開催できたことは大きな喜びでした。また、2012年には県費留学生OB会を発足し、小川知事及び県会議員の方々にご臨席頂きました。素晴らしい体験ができたことを大変有難く思っています。

私の留学する以前を振り返ってみると日本には全く興味はありませんでした。1979年に家族と共に来日し日本文化に触れ初めて親戚と会い、日本と福岡がとても好きになり日本にまた行きたいという気持ちになりました。そこで県費留学という制度を知り試験を受けようと県人会に行きましたが、「君の日本語能力ではだめだ」ときっぱり言われそこで奮起した私は日本語を猛勉強し、なんとか試験に合格し留学できる事となりました。この留学をきっかけにして私の考え方、人生が180度変わったと思います。私は、日本、福岡が大好きになり両国の架け橋になれたらと思うようになり、常に県人会の為に積極的に参加してきました。2008年から2015年まで会長を務め、大きなイベントを開催し多くの素晴らしい経験を積むことができました。その間、県知事様はじめ県会議員や家族会の方々にお会いでき、私の大きな財産となりました。

そもそも、県人会は移民が故郷を懐かしむために作られた親睦会でしたが、現在はその要素は世代交代のためになくなり存続が難しい状況になっています。

移民の子孫は大都市に居を移し大学へ進学し医者、エンジニア、弁護士、経営者、などのエリートとなり成功し尊敬される存在となり非日系の配偶者を得てブラジル人として、母国、先祖、文化を忘れがちです。

この様な状況の中で県人会にとって大きな力になるのが留学生OBと子弟招へい事業に参加した子ども達とその家族達です。日本と福岡とブラジルの架け橋になるでしょう。しかし、すべてのOBが帰国後、県人会の為に協力してくれるわけではありませんが、彼らの心の中には日本、福岡という存在が大きく、忘れられないものです。実際、最近の留学生と子弟へいに参加した子どもたちには、留学生OBの子どもが増えています。私の娘達も留学させていただきました。親の意識が子どもたちに伝わるでしょう。

そして、最大の懸案事項は、今後どのように県人会員を増やし県人会を存続させていくか、という事です。私達も常に新しいアイデアを出し合い、いかに魅力的な県人会にするのかを模索しないとイケません。運動会、カラオケ大会、文化祭りは毎年開催していますが、福岡との経済、学術、技術、スポーツなどの交流を活発に行う必要もあり、福岡県と常に意見交換をしなければいけないと思います。また、留学生OB会と福岡の商工会議所など企業と何かビジネスに繋がる事ができないかと思っています。

海外福岡県人会世界大会並びに県費留学制度50周年式典という、歴史的な式典に参加できなかったことは痛恨の極みですが、ここブラジルの空より素晴らしい式典となりますようにお祈り申し上げます。

2019年11月7日

昭和55年度福岡県移住者子弟留学生 ブラジル福岡県人会名誉会長
ブラジル福岡県人会県費留学生OB会名誉会長

南 アゴスチンニョ 俊男

お祝いメッセージ



福岡県庁、福岡県議会、福岡県国際交流センター、福岡県海外移住家族会及び海外福岡県人会の皆様、この度は、福岡県移住者子弟留学生制度50周年記念おめでとうございます。

おかげで、数多くの海外福岡県人の子弟たちがこの制度の恩恵を受けて、福岡県に留学することができ、そして、社会に飛び立つ事ができました。感謝あるのみです。

私も平成8年（1996年）に留学した際には、いろいろな周りの方のお世話になりながら、数多くのことを学ばせてもらいました。

現在、アルゼンチン福岡県人会は、会員数は少ないながらも、元県費留学生等が役員の大半をしめて、会を運営しています。

私も7年間会長を務めました。それは留学生時代に培われた、福岡県に対する愛着や感謝の気持ちの現し方の一つだと思い、引き受けたものでした。

これからも、海外福岡県人会には、この制度を必要とする若者が数多くいます。福岡県の皆様、どうか、今後もこの制度の継続を、よろしくお願い致します。

そして、現在留学中の皆さんも、この福岡で身につけた知識や技術をもって、グローバル化して行く世界の中で自分の居場所を見つけるべき努力をしてください。

今後もルーツは福岡!という合言葉で繋がって行きましょう。



2019年11月7日

平成8年度福岡県移住者子弟留学生
アルゼンチン福岡県人会

津留 アントニオ

お祝いメッセージ



福岡県庁、福岡県議会、福岡県国際交流センター、福岡県海外移住家族会、そして、各海外福岡県人会の皆さま、福岡県移住者子弟留学生制度50周年記念、誠におめでとうございます！今回、私は世界大会に出席できず大変申し訳ございませんが、元県費留学生として、感謝と御礼を申し上げますと共に、お祝いのメッセージを送らせていただきます。



この、福岡県移住者子弟留学生制度のお陰で、私は故郷である福岡県で留学・生活をするだけでなく、初めて日本を訪問することもできました。更に、大学での勉強だけでなく、福岡県及び日本での文化・社会・生活についても、いろいろ教えて頂いたことも、普通の留学と違いとてもためになりました。また、この留学のおかげで、その頃まで悩んでいた自分のルーツとアイデンティティについて、やっと自分の中で整理し、解決することができました。私は、メキシコで生まれ育ったことに対して、日本人の血が流れており、日本文化が自分の身体や精神に存在することを悟り、留學生活後は、誇りをもって自分が日系人であることを宣言できるようになり、仕事と私生活にそれを活かすことができました。

メキシコ福岡県人会だけではなく他の県人会においても、この留学制度の成果がこの数年間でやっと見えてきたと思っています。私を含めて、元県費留学生たちが役員や会長になり、それぞれの県人会を改革し、活性化している県人会があります。メキシコ福岡県人会では、残念ながらまだまだ発展途上で、経済的には福岡県に頼っている部分もありますし、県会会員が中々増えないことや、日本語を習得できていない人が多い事、若者たちが県会の行事・活動に参加しないこと、子弟招へい事業に参加した子どもたちや、県費留学から帰ってきた留学生は、帰国後自分の生活を自立するために県人会から離れる傾向にあることなど、様々な問題がまだまだ沢山あります。

県人会長としての8年の間に、県費留学制度自体にも少しずつ変化がありますし、今後も変化していく必要があるのではないかと、最近思うようになりました。その中で、福岡県に任せっぱなしではなく、全県人会もその見直しに積極的に参加するべきだと思います。私は、残念ながら仕事の関係で最近県人会活動から離れており、福岡県との絆も薄くなっていますが、今後はまた、県費留学制度の継続と全海外福岡県人会との関係を活性化させるためにも活動に参加し続けたいと思います。

私にとって、県費留学生として留学をさせて頂いたことが、自分の人生のとても重要な時期だったので、恩返しとして、将来の県人会の若者たちだけではなく、福岡県の若者たちの為により良い架け橋を作っていきたいと思っています。

皆さんも、一緒に頑張っていきましょう！

2019年11月7日

平成3年度福岡県移住者子弟留学生
メキシコ福岡県人会

平田 フランシスコ

お祝いメッセージ



私は、ペルー福岡県人会の大内田アルマンドです。日系3世で、昭和60年度の元福岡県費留学生です。

海外に住む、福岡県にゆかりがある者のための県費留学制度の50周年記念をお祝いすることは、私にとって、とても大切なことだと思っております。



私は、留学先であった西南学院大学経済学部で学んだことを生かし、1989年にペルー日系協同組合から依頼された“プロジェクト・ジャパン”を実施することができました。このプロジェクトは、日本に住む75,000人のペルー日系人を支援するためのオフィスを日本に開設するものでした。

こうして、1989年に“Kyodai”という名称でオフィスを開き、日本に住むペルー人と、ペルーに住むその家族たちを支えることができました。事業開設から30年後の今は、私は日本送金企業のリーダーとして、福岡にある1店舗を含めて20の支店、計180カ国、約60万人の移民者にサービスを提供し、ペルーからの移住者だけでなく、日本に住む外国人移住者も支えています。

今後も、日本、そして、いつも支え続けてくれている福岡県の皆様と良好な関係を築き、それが継続することを願っております。

どうもありがとうございました。

2019年11月7日

昭和60年度福岡県移住者子弟留学生
ペルー福岡県人会

大内田 アルマンド

県費留学生OBからの報告



みなさん、こんにちは。トロント福岡県人会の合戸祐と申します。

今日は、福岡県移住者子弟留学生制度創立50周年の記念式典、おめでとうございます。このような盛大なお祝いの席に、しかもこれだけ多くの元福岡県移住者子弟留学生の方々に囲まれる機会を設けていただき、誠にありがとうございます。



私は平成29年度福岡県移住者子弟留学生として、九州大学経済学部留学させていただき、主に日本の視点の経済学や経営学、また日本語を学びました。在日中、福岡県海外移住家族会のみなさんが企画してくれた活動、国際交流センターの事業に参加し、親戚と交流することでルーツである福岡の伝統的な文化も多く学ぶことができました。

帰国後、母国の県人会の年次総会では県費留学や県人会担い手育成招へい事業で得た体験のプレゼンを始め、留学中作成した簡単なブログも県人会のウェブサイトに記載することで私の体験を多くの人に知っていただいています。また、二月ほどに一度の県人会の会議に参加し、毎年恒例行事のピクニックやボーリング大会のお手伝いもさせていただいております。

私は福岡で数々の日本人との大切なつながりや多国籍な日系ファミリーができたことが留学から得た一番の財産だと思っております。母国では数少ない日系人の一人で、留学以前は日本の文化を理解にいとを感じることもありました。しかし、外国人として多くの日本人や日系人と接しチームワークを行うことで、文化的多様性の理解や今まで意見が対立しがちだった人たちとも前向きな総合依存性を築ける自信ができました。

この数々の繋がりを絶やさず、自分たちが実感した福岡・日本の伝統的な文化や知識を母国で伝えていくことが私たち県費留学生OBに与えられた大きな使命であり、そのためにも、母国の県人会活動に積極的に参加し、今後の県人会の活性化につとめることが大切だと思っております。

最後になりましたが、勉学に併せて、こういった貴重な体験を可能にさせてくれた福岡県、また私たちの留学生生活を支えてくださった皆様にあらためてお礼申し上げます。

以上をもちまして、福岡県移住者子弟留学生のOBからの報告とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

2019年11月7日

平成29年度福岡県移住者子弟留学生
トロント福岡県人会

合戸 祐

県費留学生OBからの報告



福岡県知事様、世界の各地から来られている福岡県人会の皆様、お集まりの皆様こんにちは、ブラジル福岡県人会の古川植松マルシアと申します。よろしくお願ひ致します。

私は、平成8年に九州大学の法学部で北川教授の指導のもとで、国際交流法を学んだ元留学生です。さらに、今年度の県人会担い手育成招へい事業にて、長男の古川裕一ペドロが来日しました。息子は短期間でしたが、色々な経験をして、物事を深く考えるようになり、よりグローバルな世界観を身につけ、将来は福岡へ留学するという大きな夢を持って、ブラジルへ戻りました。



このように、私たち親子は言葉で表せないほどの幸運者と言える素晴らしい留学の体験をさせて頂きました。そういった機会を与えて下さった福岡の皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。厚く御礼申し上げます。

私は、県費留学生制度により、九州大学で学んだ法律分野での知識だけではなく、日本の日常生活を知ることができ、人としても大きな成長を遂げることができました。その経験を活かし、バランスのとれた法律家になることができたと思います。

留学期間を終え、帰国後、私は懸命に勉強をし、国家公務員試験を受け、平成12年に国立社会保険院の公認弁護士の職に就きました。その直後、サンパウロ州と南マットグロッソ州を含む第3地方連邦司法の試験に合格しました。それ以来、連邦判事のキャリアを積んでいます。私は現在、サンパウロ州サンパウロ大都市圏のサントアンドレ市で連邦判事を務めております。

私の人生に大きく影響を与え職業上の成功に導いてくれたのが、この県費留学生の有益な経験です。

私たちの祖父母は、この国から未知の国へ移住しました。彼らはより良い生活を求め、家族や友人と別れ、故郷を離れ、夢を追ってブラジルへ移住しました。とても苦労したと聞きました。

そのため、私が祖父母のルーツである福岡へ県費留学生として訪れ、彼らの故郷を知り、親戚にも会えたことは祖父母にとっても、大きな幸せだと思います。これは、県費留学と他の留学制度の違いです。福岡を知らない二世、三世たちが祖先の歴史、町、祖父母が話す方言、文化に触れるという貴重な体験ができる魅力的な留学制度です。

現在、多くの若者は日本語の話せる祖父母と同居していない為、日本語を話せない人が沢山います。今後、留学制度を維持していくためには多くの問題点が出てくると思いますが、その中での言葉の問題点は大きいとおもいます。これに関連し、県人会担い手育成招へい事業は子供達が日本につい

て勉強をし、文化に触れることにより、もっと日本を知りたい、日本語を話したいという気持ちを高める機会をあたえ将来の留学生に繋げていく、素晴らしい制度だと思います。多くの元留学生は、医療、農業、工業、経済、政府機関、などさまざまな分野でそれぞれの活動にてブラジル社会にとって非常に重要な役割を果たしています。我々元留学生の職業上の成功の裏には県費留学の経験が大きく貢献しています。

この50年間、様々な逆境と困難にもかかわらず、県費留学生制度をずっと支えて下さった、福岡県、国際交流センター、そしてブラジル福岡県人会の皆様には厚くお礼申し上げます。

次世代の留学生の為に、これから先もこの重要な留学制度が継続されることを祈りながら皆さま方に感謝の意を捧げます。

さらに、革新的な県人会担い手育成招へい事業への取り組みに対し、厚く御礼申し上げます。最後になりますが、さらなる日本との交流と日伯両国の発展につながる実りある将来になるよう期待申し上げますとともに、本日ご列席の皆様のご健勝を祈念致しまして、私の報告とさせていただきます。

大変有難うございました。

2019年11月7日

平成8年度福岡県移住者子弟留学生
ブラジル福岡県人会

古川 植松 マルシア

県費留学生OBからの報告



私は平成2年度（1990年）の県費留学生、福島義則ワルテルと申します。ブラジル福岡県移民の三世でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

このような尊いスピーチの機会をいただきまして大変光栄です。少しばかり私の経験を報告させていただきますとともに、日本、福岡で県費留学の機会を与えてくださいました福岡県民を代表する福岡県知事に厚く御礼申し上げます。



留学当時は九州大学医学部の故杉岡よういち博士のご指導をいただきました。現在はサンパウロ市近郊で整形外科、外傷、その他5つの専門のクリニックを20人の医師団と経営しております。またサンパウロ連邦大学で医学博士号を習得し、今月60歳になりました。

当時、海外の福岡県移民子弟にとって日本で勉強できる橋渡しは福岡県国際交流センターが唯一であり、現在もなおその使命を堅実に果たして、50年の歳月見事に続けていただきました。このご恩は一生忘れません。心から深く御礼申し上げます。

留学を申し込んだ時は、日本の高い教育水準はもちろん認識しておりましたが、まだ知らない自分の祖父母、祖先の育った地で勉強できる機会に恵まれることがいかに貴重なことだったか、祖先のお墓にお線香を捧げることができたときは、私のアイデンティティを再発見できた感動的な瞬間でした。

恩師杉岡よういち博士は、当事医学部長でしたが、後に九州大学の総長になられた方です。この有名な九州大学で杉岡博士、他助教授の方々から最先端の技術、福岡で開発されたテクニックを本当に使命感いっぱい、無償で授かりました。

一年間の留学はあっという間に過ぎましたが、その成果は期待以上で勇気と希望に燃え充実した留學生活でした。帰国後も留学で学んだことはしっかりと身につけ、医学の技術はもとより、謙虚さ、親切、感謝、困っている人々に対する慈悲、患者さんへの丁寧な対応など、留学当時の医学部副部長兼整形外科の理事、井上教授から教えられたことで、現在も機会あるたびに他の医師にこの学びを共有しております。

現在も医学、健康管理、整形外科の手術に関して勉強をつづけておりますが、相変わらず私の日本語はお粗末です。そう言いながら留学から30年が過ぎましたが、必ず日本語を上達させます。粘り強く頑張ることも九州大学で教えて頂きました。

帰国後、ブラジル福岡県人会では青年部長を4年間務めました。その後は毎年開催される日本祭り、地元のブラジル福岡県人会サント・アンドレ支部でお手伝いをしています。

私の祖父母は日本からブラジルへ移住し、コーヒー農園で勇敢に働きました。その精神を受け継いで、父たかしも良き父で家族の手本となり私たちを養い、頑張ってくれて、今年93歳で他界しました。私はブラジルで生まれ育ち、ブラジル人であることに誇りを持っておりますが、私の中には日本人としての精神が宿っております。九州大学の先生方から教えて頂いたこと、日本人の精神は今も生き生きと宿っております。この学びを忠実に生かし、これからも医術の道に専念していきたいと思っております。

私は、20年前に父母、家内サンドラ同伴で訪日いたしました。2016年には息子ファビオも県人会担い手育成招へい事業に参加させていただき、訪日いたしました。妻も息子もまた訪日したいと言っております。できれば来年の東京オリンピックに願いが叶うかも知れません。

最後になりましたが、本日お集まりの皆様、何時も優しく迎えてくださる、日本の皆様、福岡の皆様がこのすばらしい日本文化を忘れることなく末永く守ってください。

皆様のご健康、ご多幸、発展を祈念し、私の報告とさせていただきます。誠にありがとうございました。

2019年11月7日

平成2年度福岡県移住者子弟留学生

ブラジル福岡県人会

福島 義則 ワルテル



所属県人会	氏名	留学年度
アルゼンチン福岡県人会	江口 イネス マリア	平成27年
	杉野 清	昭和55年
	杉野 ニコラス アレハンドロ	令和元年
	津留 アナ パウラ	平成26年
	原田 亜希 ミカエラ	平成24年
	湯浅 ファクンド	平成25年
コロンビア福岡県人会	黒木 なつみ バネッサ	平成26年
	小松 マリアテレサ ハルミ	平成元年
	坂本 サチ アンドレア	令和元年
在ボリビア福岡県人会	岩瀬 ケビン 司	令和元年
	緒方 進	昭和57年
	近藤 喜美子	昭和54年
	徳永 多一	昭和62年
	藤田 由紀	平成5年
	古木 信子	昭和53年
	米倉 明美	平成7年
	米倉 俊江	平成2年
トメアスー福岡県人会	稲田 明 アウミー	平成21年
トロント福岡県人会	合戸 祐	平成29年
南加福岡県人会	堀 大志	令和元年
パラグアイ福岡県人会	北川 哲也	平成30年
	熊谷 清美	平成4年
ハワイ島福岡県人会	岩崎 ケリー	平成29年
ブラジル福岡県人会	池尻 明美 カリナ	令和元年
	井田 アンドレ ルイス 義夫	平成17年
	猪又 イベッチ	昭和53年
	江藤 エンヒッケ イチロウ	令和元年
	江藤 カルロス 光明	昭和63年
	太田 砥綿 マリアナ 絵理	平成29年
	落合 小田 ルイザ 春恵	昭和54年
	梶本 さくら デニーゼ	平成14年
	シルバー 石井 ジェゴ	令和元年
	高階 矢富 ジュリアノ 強	平成27年
	辻沢 和恵	昭和50年
	中井 池尻 美理	平成10年
	中尾 白井 マルシア 明子	昭和59年
	檜橋 マリ	昭和54年
	芳賀 田中 ベーラ 公子	昭和58年
	平田 エリザ	平成16年
	福島 義則 ワルテル	平成2年
	古川 植松 マルシア	平成8年
	南 ソフィア 美陽	平成26年
	南 ビビアン 千秋	平成21年
	宮崎 尾崎 ルシア 浩美	昭和58年
棕野 オリビア	昭和53年	
矢野 エレナ みよこ	平成5年	
ペルー福岡県人会	梅崎 小林 ファビオ グスタボ	平成16年
	坂口 エリサ	昭和59年
	シバタ サウリルイス アンヘル コイチ	令和元年
	竹下 ケニー	平成29年
	橋本 ルシラ	昭和50年
平方 いずみ	昭和5年	
ベレン福岡県人会	岡村 君江	平成4年
メキシコ福岡県人会	谷川 フロレス ホアン カルロス	平成29年
	寺本 飯田 利生 アルツーロ	令和元年
	寺本 飯田 英樹	平成27年



————— 主催者挨拶 —————
小川洋福岡県知事



————— 来賓祝辞 —————
栗原涉福岡県議会議長



————— 県費留学生OB代表挨拶 —————
在ボリビア福岡県人会会長 米倉宮園ローサ俊江



————— 県費留学生OBの報告 —————
トロント福岡県人会 合戸祐



————— 県費留学生OBの報告 —————
ブラジル福岡県人会 古川植松マルシア



————— 県費留学生OBの報告 —————
ブラジル福岡県人会 福島義則ワルテル

福岡県移住者子弟留学生制度50周年
記念式典・記念懇親会 写真



花束贈呈



式典



福岡県移住者子弟留学生制度50周年
記念式典・記念懇親会 写真



————— 乾杯 —————
公益財団法人福岡県国際交流センター
理事長 藤永 憲一



福岡県移住者子弟留学生制度50周年
記念式典・記念懇親会 写真



福岡県移住者子弟留学生制度50周年
記念式典・記念懇親会 写真



福岡県移住者子弟留学生制度50周年
記念式典・記念懇親会 写真



福岡県移住者子弟留学生制度50周年
記念式典・記念懇親会 写真



昭和47年度



ブラジル 名島 エリーザ

昭和48年度



ブラジル 矢野 高司
中島 エウザ 昌代
大野 みどり

昭和49年度



ブラジル 田中 克己
尾花 弘治
岩下 知子
平田 ルンヤ 末子
大場 シルテス 仁美

昭和50年度



ブラジル 三坂 和恵
金江 洋子
浅原 セリア 由美子
ヘルー 橋本 ルンラ サエコ
南 加 川島 ジエニー 桂子

昭和51年度



- ブラジル 椿 ショージ 秀雄
 仁田原 テレジニヤ 富美枝
 大坪 ナイル
 ヘルパー 柴田 エステル 玲子
 南加 山本 秀人

昭和52年度



- ブラジル 田代 節子/倉谷 武子
 牟田 まりえ/松尾 マルシア 泉
 ヘルパー 山村 ロベルト/野田 エルネスト
 ホリビア 石崎 忠男
 南加 堀田 光代

昭和53年度



- ブラジル 江口 健二/樋口 ホセ 義光
 浅原 イハッテ 千津子
 平田 博幸/棕野 オルビア
 トメアスー 林 ミルトン 宏行
 ヘルパー 池田 フラビオ 康
 ホリビア 八田 信子
 ヘルパー 坂口 まり
 南加 横溝 喜美子

昭和54年度



- ブラジル 角本 直人
 小田 ルイザ 春恵
 長野 マリ
 城島 卓士
 ホリビア 久家 健次
 仁田原 喜美子
 パラグアイ 岩見 研一
 南加 熊谷 芙蓉

昭和55年度



ブラジル 山浦 和子
 南 アゴスチニョ 俊男
 中山 春美
 野口 エレーナ 孝子
 ホリビア 川波 美智子
 ハール 豊福 イサベル クリステイナ
 アルゼンチン 杉野 清

昭和56年度



ブラジル 井上 ジョージ 和雄/北川 淳
 矢野 徳一/吉浦 アレ 静江
 阿南 スエリ 妙子
 吉浦 マリナ 田江子
 アルゼンチン 只隈 繁美

昭和57年度



ブラジル 佐々木 穰而/古賀 エミリア
 梶原 メーリ 美鈴
 中村 クラウジオ 富士男
 横溝 イラ 恵子/竹井 エジソン
 ハール 馬場 エリケ アキオ
 ホリビア 緒方 進
 南 加 熊谷 葉古

昭和58年度



ブラジル 小坪 セリーナ のり子/尾道 匡子
 井手 マリア 文子/田中 ヘラ 公子
 尾崎 ルーシア 浩美
 トマスー 仲村 エドアルド 明人
 ハレン 柴田 アンナリア 裕子
 ハール 平方 執行 いずみ ロサ
 ホリビア 小林 野村 聖美 カタリーナ
 コロンビア 手島 ナージャ 美智子

昭和59年度



ブラジル 豊福 エリア 信子/宮原 久美
白井 明子/千代 エリア
高倉 章實 ルイザ
ヘールー 坂口 西沢 エリザ
ホリビア 松本 恭子
アルゼンチン 塚本 松尾 エミヤ
レスブリッジ 時津 プレント 正雄

昭和60年度



ブラジル 身吉 リア みね/佐々木 啓蔵
古賀 ウェリントン/吉村 アントニオ 浩
古賀 ゆり子 レジーナ
ヘールー 大内田 野田 ホルヘ アルマンド
大塚 川西 ワルテル 明男
ホリビア 緒方 広志
南 加 小山 奈桜美 ジャネット
バンクーバー 松山 エドワード 卓志

昭和61年度



ブラジル 横山 伊沙夫/棕野 パウロ
三井 レニセ 智恵美
樋口 スエリ 啓子/石井 緑
ヘレン 松浦 千枝 ジューリヤ
ホリビア 仁田原 憲二
アルゼンチン 稲富 イザベル 和子
メキシコ 飯田 グロリア 真由美

昭和62年度



ブラジル 吉村 洋子/行徳 勉 アデマル
矢野 幸子 ラウ/仁田原 春美 セリア
須郷 アルベルト 功
ヘレン 鶴崎 ジョゼ 宗成
アルゼンチン 津留 アルベルト
ホリビア 徳永 多一
メキシコ 島崎 明美 エリサ
ヘールー 坂口 ロベルト

昭和63年度



ブラジル 江藤 光明 カロス
 宮原 理佳
 行徳 直美 レジーナ
 福永 ミルトン
 平塚 恭子
 ヘレン 柴田 悠二
 アルゼンチン 荒瀬 美紀
 メキシコ 芝山 アリシア 弥生
 南 加 カヤマ 春美

平成元年度



ブラジル 草場 アマテル 隆雄
 横溝 マルネ 節子
 田中 まり子 ネ行/近藤 茂行 トワルト
 鳥越 愛子 クスーナ/三原 和美 マリア
 ヘレン 山科 桜
 コロンビア 塚本 マリア テレサ
 ホリビア 徳永 富美
 メキシコ 大熊 マリア エレナ 真理子

平成2年度



ブラジル 小西 晴美 判/福島 ワルテル 義則
 佐伯 和枝/矢野 ジェルソン 哲夫
 江藤 アンジェラ 信恵
 アルゼンチン 城森 ミルナ エリザベト
 ホリビア 宮園 俊江
 コロンビア 塚本 ヘアトリス
 メキシコ 新尾 エリカ
 ヘルー 小宮 尾崎 ルイス ヘルート

平成3年度



ブラジル 宮崎 イザ 栄子/矢野 百合江
 山口 イザ 静子/青木 ルイス 澄夫
 高橋 ニルトン 浩市
 ヘレン 西村 ゆかり
 トメアスー 田原 ミキ エリーザ
 アルゼンチン 船越 アンヘリーナ
 ホリビア 仁田原 ひとみ
 メキシコ 平田 フランシスコ
 ヘルー 大内田 ハイメ ルイス

平成4年度



ブラジル 前田 真理子 マルネ
井上 美恵 クルザ/秋吉 京美
吉田 ヒトシ 広世/平田 リナルド
ヘレン 酒井 君江 シモニ
ホリビア 八田 勇作
パラグアイ 熊谷 清美
メキシコ 柴山 ハビエル 順一
ヘールー 松藤 夕

平成5年度



ブラジル 大力 エーザ 美奈/秋永 エリザ
廣木 ヨシエ/原田 ウィリアム 義二
宮崎 マリ ヒトミ/矢野 エーナ 美代子
ヘレン 酒井 みち代
アルゼンチン 山本 ホセ アウグスト
鈴木 カリナ エリサ
ホリビア 川波 由紀
メキシコ 塚本 のり子
南 加 保坂 由美

平成6年度



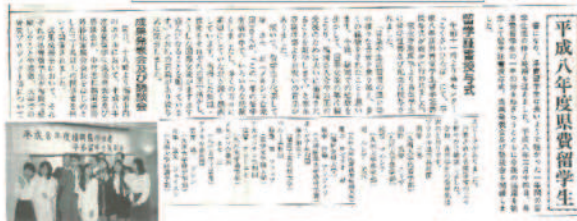
ブラジル 鹿毛 ジュリオ 一/角 敏郎
井上 伊シオ 照雄/青木 アンナマリア 由美
沢田 マルシア 千代子/南 セルジオ 勇一
湯越 エミリア 恵美
ヘレン 佐藤 カチア 美智
ホリビア 宮園 英美
パラグアイ 橋本 パレリア メルセデス
メキシコ 飯田 博子
ヘールー 田中 ゲスタボ アドルフォトシロ

平成7年度



ブラジル 吉村 淳一/植松 ニハア 真澄美
細江 小百合 リア/池尻 隼人
大滝 セシリア 貴美子
ヘレン 柴田 菊枝 エリザベッテ
ホリビア 石崎 明美
コロンビア 倉富 エリザベー ロドリゲス
ペルー 井上 織田 カレン モニカ
アルゼンチン 山本 フランシスコ
メキシコ 林田 ホセルイス 裕史
南 加 田島 真理 クリスティーン

平成8年度



ブラジル 岡谷 三喜/浦野 美香 エリサ
植松 マルシア/南 ルシア 光代
園木 ロゼリオ 勲
トメアスー 田中 沙織 アンジェラ
ホリビア 藤井 加奈子
ヘールー 権藤 南 ソフィア
アルゼンチン 津留 アントニオ
メキシコ 堤 ホセ 正
南 加 石井 誠二 グレン
山本 宜史 ジェイスン

平成9年度



ブラジル 矢野 美智子 エリサベテ
大坪 聖則 セルジオ/大里 真由美
丸林 淳 エドアルド/松田 エリアネ
平島 武志 ロベルト
ヘールー ユズリハ タナ リアナ
アルゼンチン 沼田 ルミ フェリシア
メキシコ 福原 三和
南 加 安武 美加 エイミー
ハンクーパー 松本 由美 キャロライン

平成10年度



ブラジル 池尻 美理/森部 マルコス
矢田 カチア/椿 恵美 マルシア
古賀 クリスチナ カラ/矢野 吉秋
ヘレン 筒井 美奈 シモニ
ホリビア 仁田原 幸/川波 照明
ヘールー 山村 セシリア ピラール
メキシコ 林田 アナ はるみ
南 加 竹内 デビッド 純一

平成11年度

平成11年度 福岡県移住者子弟留学生留学証授与式及び送別会



福岡県移住者子弟留学生の卒業式は、毎年11月10日(日)に本校で行われます。今年も多くの卒業生が、親戚や友人の送別会に参加し、涙ぐみながら卒業証書を受け取りました。卒業生からは、「本校で学んだことは、一生の宝です。これからも母校を応援していきます」とのメッセージが寄せられました。

ブラジル 岡谷 美世子 ルシアーナ
住岡 晴美 アリア/渡部 智 マルコス
川崎 アカネ/橋本 勇 マルコス
ヘレン 筒井 奈緒美 クリスチーナ
ホリビア 松野 ヘロニカ
ヘールー 田中 マリア セシリア/富田 アン カロス
メキシコ 玉江 みゆき
ハンクーパー 小野 玲美

平成12年度



ブラジル 浦野 真悟 ジョン/川崎 梢
高野 道子/橋本 美那 ルシアーナ
石松 芽理 カリーナ
ペルー 安藤 豊紀
ボリビア 川波 路幸/仁田原 恵
アルゼンチン 谷口 パトリシア
ペルー 平川 夕
メキシコ 田中 パトリシア
南 加 川口 コー

平成13年度



ブラジル 鈴木 章夫 セイモール/角 健三
梶本 薫 アンジェリカ/田中 幸恵 エリザ
山下 日砂斗 エルネスト
西木戸 幸治 エリカ/末次 明子 ナタリー
コロンビア 倉富 ウーゴ
ペルー 前田 葉 ラウラ マルティナ
メキシコ 飯田 幸子
バンクーバー 猪腰 美加

平成14年度



ブラジル 梶本 さくら デニーゼ
日野 アキ エリカ/永野 数子 マルシア
石井 クリスチアネ/中嶋 雅己 オスカル
アルゼンチン 津留 ロベルト 浩二
パラグアイ 熊谷 奈美
ペルー アギラル 大津 ロシオ スサナ
南 加 安武 華子 リサ
バンクーバー 福田 幸 キャサリン

平成15年度



ブラジル 檀 まゆ/中嶋 てるこ クリステイナ
齊藤 ジュリアナ/原 歩 ナンシー
トメアスー 加藤 大行 アントレ
アルゼンチン 津留 エレオノール ノエミ
ボリビア 川波 久恵
ペルー 津田 宮川 マリエラ シルビア
南 加 上原 正太郎
バンクーバー 猪腰 晴美

平成16年度



ブラジル 小島 リンゴ 幹児/平田 エリザ 正子
吉田 クリスタネ ゆり/松田 レナツ
ペルー 手島 ファビオ 進
アルゼンチン 長柄 マリエーラ ソルダ
ボリビア 仁田原 愛
コロンビア 倉富 モニカ 小百合
ペルー 梅崎 小林 ファビオ グスターボ

平成17年度



ブラジル 三船 義明 ウィリアム/松延 喜代
藤山 梨花 カア/井田 義夫 アンドレルイス
南 菜津美 マルガレッチ
トメアスー 加藤 清正 アラン
マナウス 坂本 あゆみ マリアーナ
ボリビア 川波 悟
コロンビア 徳永 リカルド
アルゼンチン 仲地 アレハンドロ パブロ

平成18年度



ブラジル 石井 克実 アンドレ/芭蕉 日弥子
細江 ジュリア 亜紀/行徳 ゆり子 ラル
田中 小百合 アトリアナ
中村 誠 ウィリアム/川谷 井本 シルビア
ボリビア 川波 リサ
ペルー 平川 マガリ カルメン ロドリゲス
サンフランシスコ 鶴川 キース 亜星

平成19年度



ブラジル 田呂丸 英士 チアゴ
上村 雅美 リアーナ
倉富 恵 サンドロ
吉元 武志 アンドレ
福島 マリエ タイス
馬場 大五郎 エルメス
ボリビア 藤井 由美
ペルー ガルフィアス 山下 ダニエル アルトゥーロ

平成20年度



ブラジル 角 伸ハラ 茜/松田 前田 ハラ 裕美
芭蕉 宏美 アーネ/木村 啓 デニス
トメアスー 加藤 協 アレックス
ホリビア 仁田原 優
アルゼンチン カラン ロイ
メキシコ 仲宗根 沙織
ヘルー ヒグチ アンドレア マツダ シュリアナ
南 加 宍戸 達朗

平成21年度



ブラジル 南 ビビアン 千秋
平田 エリス 直美
砥綿 アンナ カロリーナ
永島 まり子 イラン
秋岡 シルヴィア ルミ
トメアスー 稲田 明 アウミー
ホリビア 川波 真理
ヘルー 梅崎 カジヨ レスリー

平成22年度



ブラジル 清水 博史 エステハン
松延 多美
内田 シバリ
今村 フラビオ アキラ
中村 イアラ 明美 デ アルメイト
ホリビア 緒方 デイナ おさえ
ヘルー 真壁 カワハラ ヘルルト ミキオ

平成23年度



ブラジル 大友 池部 ルシアネ
田中 真理恵 シンチア
篠崎 忠夫 ブルーノ
ヘルン 信重 真紀 アンジェラ

平成24年度



ブラジル 平山 英子 加ナ/樋口 シェル 優一
中尾 カリーネ きみえ
トメアスー 稲田 池田 美穂 ナージア
ホリビア 川波 一幸
コロンビア 小椋 恵子
アルゼンチン 原田 ミカエラ
ヘールー タナヘ ゲティエレス アルド
南 加 山本 ケリー 真由美
オランダ 立花 操

平成25年度



ブラジル 細江 タニア 絵美
松延 理恵
上田 上村 ゆきこ ブルナ
横尾 謙児 ロナルド
ヘールー ヨシカ ハニテス デイゴ アロンソ
ホリビア 徳永 直人
アルゼンチン 湯浅 ファクンド
南 加 金川 龍介

平成26年度



ブラジル 南 美陽 ソフィア
行徳 さゆり ミリア
行徳 政士 ロニー
重 エリツキ 和男
ヘールー タケシタ クリステイ
コロンビア エルナンデス 黒木 なつみ バネッサ
ホリビア 川波 直美
メキシコ 棚町 ヘラルド
アルゼンチン 津留 アナ ハウラ

平成27年度



ブラジル 高階 矢富 強 シュリアノ
平田 さゆり カレアンドラ
パラグアイ 北川 瞳
ヘールー ゲティエレス タナヘ アレックス
ホリビア 緒方 翔 マルセロ
メキシコ 吉開 エルナンデス 順一/寺本 英樹
アルゼンチン 江口 イネス マリア
南 加 松井 武士 エリツキ
プエルトリコ エミリー ジョン

平成28年度



ブラジル 中村 クリシアネ 小百合
 浅野 レナン ゆうじ
 清水 愛実 サラ
 池尻 カン 直美
 パラグアイ 山崎 亜希
 ヘールー 松藤 福田 カロス アウグスト
 ホリビア 八田 生香

平成29年度



ブラジル 福山 真伊
 矢野 マルシア 百合江
 太田 砥綿 マリアナ 絵理
 ホリビア 徳永 アレハンドロ 勇一
 ヘールー 竹下 ケニー
 メキシコ 谷川 フロレス ホアン カロス
 トロント 合戸 祐
 ハワイ島 イワサキ ケリー カオリ

平成30年度



ブラジル 中村 幸恵 サリー
 恒富 ジアナ 美樹
 新垣 要吉 ファビオ
 パラグアイ 北川 徹也
 ホリビア 緒方 ナカムラ デニセ ミナ
 アルゼンチン 船越 カティア 亜矢子
 ヘールー たくま 新川 ジェシカ
 メキシコ 田中 ゴーメス ヨシロ アルフレード

令和元年度



ブラジル シルバー 石井 ジエゴ
 池尻 明美 カナ
 江藤 エンヒツケ イチロウ
 コロンビア 坂本 サチ アンドレア
 ホリビア 岩瀬 ケービン 司
 アルゼンチン 杉野 ニコラス アレハンドロ
 ヘールー シハタ サウリス アンヘル コイチ
 メキシコ 寺本 飯田 利生 アルツロ
 南 加 堀 大志

県人会別留学生受け入れ実績一覧



県人会(国)名		ブラジル	ペレン	トメアスー	マナウス	パラグアイ	在ボリビア	コロンビア	アルゼンチン	ペルー	メキシコ	南加	サンフランシスコ	ハワイ島	トロント	バンクーバー	レスブリッジ	合計
昭和41年度	男									1								1
	女																	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
昭和42年度	男	1								1								2
	女																	
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
昭和43年度	男	1																1
	女	2																2
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
昭和44年度	男	3								1								4
	女																	
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
昭和45年度	男									2								2
	女	3																3
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
昭和46年度	男	1																1
	女	2								1								3
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
昭和47年度	男																	0
	女	1																1
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
昭和48年度	男	1																1
	女	2																2
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
昭和49年度	男	2																2
	女	3																3
	計	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
昭和50年度	男																	
	女	3								1		1						5
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5
昭和51年度	男	1										1						2
	女	2								1								3
	計	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5
昭和52年度	男						1			2								3
	女	4										1						5
	計	4	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	8
昭和53年度	男	3	1	1														5
	女	2					1			1		1						5
	計	5	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	10
昭和54年度	男	2				1	1											4
	女	2					1					1						4
	計	4	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8

県人会別留学生受け入れ実績一覧



県人会(国)名		ブラジル	ベレン	トメアスー	マナウス	パラグアイ	在ポリビア	コロンビア	アルゼンチン	ペルー	メキシコ	南加	サンフランシスコ	ハワイ島	トロント	バンクーバー	レスブリッジ	合計
昭和55年度	男	1							1									2
	女	3					1			1								5
	計	4	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7
昭和56年度	男	3							1									4
	女	3																3
	計	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
昭和57年度	男	3					1			1								5
	女	3										1						4
	計	6	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	9
昭和58年度	男			1														1
	女	5	1				1	1		1								9
	計	5	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10
昭和59年度	男																1	1
	女	5					1		1	1								8
	計	5	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	9
昭和60年度	男	3					1			2						1		7
	女	2										1						3
	計	5	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	10
昭和61年度	男	2					1											3
	女	3	1						1		1							6
	計	5	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	9
昭和62年度	男	2	1				1		1	1								6
	女	3									1							4
	計	5	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	10
昭和63年度	男	2	1															3
	女	3							1		1	1						6
	計	5	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	9
平成元年度	男	2																2
	女	4	1				1	1			1							8
	計	6	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10
平成2年度	男	2								1								3
	女	3					1	1	1		1							7
	計	5	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	10
平成3年度	男	2								1	1							4
	女	3	1	1			1		1									7
	計	5	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	11
平成4年度	男	2					1				1							4
	女	3	1			1				1								6
	計	5	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	10
平成5年度	男	1							1									2
	女	5	1				1		1		1	1						10
	計	6	1	0	0	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	12

県人会別留学生受け入れ実績一覧



県人会(国)名		ブラジル	ベレン	トメアスー	マナウス	パラグアイ	在ボリビア	コロンビア	アルゼンチン	ペルー	メキシコ	南加	サンフランシスコ	ハワイ島	トロント	バンクーバー	レスブリッジ	合計
平成6年度	男	4								1								5
	女	3	1			1	1				1							7
	計	7	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	12
平成7年度	男	2							1		1							4
	女	3	1				1	1		1		1						8
	計	5	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	12
平成8年度	男	1							1		1	2						5
	女	4		1			1			1								7
	計	5	0	1	0	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	12
平成9年度	男	3																3
	女	3							1	1	1	1				1		8
	計	6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	11
平成10年度	男	2					1					1						4
	女	4	1				1			1	1							8
	計	6	1	0	0	0	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	12
平成11年度	男	2								1								3
	女	3	1				1			1	1					1		8
	計	5	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	11
平成12年度	男	1	1				1											3
	女	4					1		1	1	1	1						9
	計	5	1	0	0	0	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	12
平成13年度	男	4						1										5
	女	3								1	1					1		6
	計	7	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	11
平成14年度	男	1							1									2
	女	4				1				1		1				1		8
	計	5	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	10
平成15年度	男			1								1						2
	女	4					1		1	1						1		8
	計	4	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	10
平成16年度	男	2	1							1								4
	女	2					1	1	1									5
	計	4	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	9
平成17年度	男	2		1			1	1	1									6
	女	3			1													4
	計	5	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10
平成18年度	男	2											1					3
	女	5					1			1								7
	計	7	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	10
平成19年度	男	4								1								5
	女	2					1											3
	計	6	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8

県人会別留学生受け入れ実績一覧



県人会(国)名		ブラジル	ペレン	トメアスー	マナウス	パラグアイ	在ポリビア	コロンビア	アルゼンチン	ペルー	メキシコ	南加	サンフランシスコ	ハワイ島	トロント	バンクーバー	レスブリッジ	合計
平成20年度	男	1		1					1			1	1					4
	女	3					1			1	1							6
	計	4	0	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	10
平成21年度	男			1														1
	女	5					1			1								7
	計	5	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8
平成22年度	男	2								1								3
	女	3					1											4
	計	5	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
平成23年度	男	1																1
	女	2	1															3
	計	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成24年度	男	1					1			1								3
	女	2		1				1	1			1	1					7
	計	3	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	10
平成25年度	男	1					1		1	1		1						5
	女	3																3
	計	4	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	8
平成26年度	男	2									1							3
	女	2					1	1	1	1								6
	計	4	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	9
平成27年度	男	1					1			1	2	1						6
	女	1				1			1			1						4
	計	2	0	0	0	1	1	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	10
平成28年度	男	1								1								2
	女	3				1	1											5
	計	4	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
平成29年度	男						1			1	1							3
	女	3												1	1			5
	計	3	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	8
平成30年度	男	1				1					1							3
	女	2					1		1	1								5
	計	3	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	8
令和元年度	男	2					1		1	1	1	1						7
	女	1						1										2
	計	3	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	9
総計	男	83	5	6	0	2	15	2	11	24	10	9	1	0	0	1	1	170
	女	151	11	3	1	5	25	8	14	22	13	14	1	1	1	5	0	275
	計	234	16	9	1	7	40	10	25	46	23	23	2	1	1	6	1	445

